

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第72号

2023(令和5)年12月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

目を疑う圧巻の綿畑 — 全国コットンサミット in 東松島 —

圧巻の綿畑でした。宮城県東松島市大塩にある赤坂農園では、50アール(約5,000㎡。約5反)の綿畑一面に、真っ白な綿花がはじめていました。生まれて初めて見る光景に、息を飲むというか、度肝を抜かれるというか、目を疑うというか、とにかく圧倒されました。それは、ながらく綿花栽培に関わってきた者だからこそその感慨であったかもしれません。

「2023全国コットンサミットin東松島」は、令和5年11月24日(金)に東松島市コミュニティセンターを会場に式典と講演、パネルディスカッションが行われ、翌25日(土)は現地見学会として「東北コットンフェスティバル2023」(会場は赤坂農園：東北コットン東松島農場)に参加しました。圧巻の綿畑はそこで目にした光景ですが、さらに感動的であったのは一面に広がる真っ白な綿花が、綿摘み体験に参加した一般市民の方々の手によって瞬く間に収穫されていく様子でした。これも綿摘み作業の大変さを知っている者だからこそその感動であったのは間違いありません。

それにしても、真っ白な綿畑というのは、圧巻ではあっても違和感が伴います。外国では広大な農地一面に広がる綿畑に、農薬を投入して葉を落としてから収穫する、という話を聞いたことがあるからです。そうでもないかぎり、通常は綿がはじめてもまだ葉が残っています。まさか…。

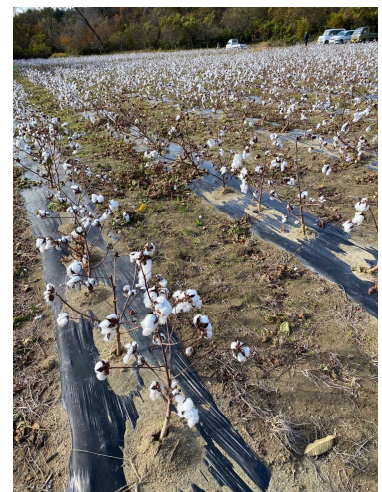
どうしても気になり、農園主の赤坂芳則氏にお声をかけ、理由をお尋ねしました。赤坂氏はお忙しい最中にありながらも丁寧に次のようにお答えくださいました。「この日のために、すべて葉っぱは手作業で落としました。綿木に葉っぱがついていると、どうしても綿摘みがしにくいですし、綿摘みの際に収穫綿に葉っぱが混入する率が高くなるからです」と。そして「今年は夏の異常気象で、綿木の生長が芳しくありません。ほんとうはもっと立派な綿木を見てもらいたかったのですが」と。収穫綿に葉ゴミが混入することによって、その後の工程に支障を来すことはよくわかります。それにしても、すべて手作業で葉っぱを落とすことにも相当なエネルギーが必要です。なぜ、そこまで？ 赤坂氏はそれ以上は語られませんが、きっと氏の胸のうちには、「真っ白な一面の綿畑の美しさを味わいつつ、綿を摘みやすくしておくことによって、参加者のみなさんに少しでも楽しく、ワクワクしながら作業をしてもらいたい」という熱い思いがあったのではないのでしょうか。参加されている方々には家族連れも多く、一人でも多くの人に綿への関心を高めてraitたい、と。

東北地方での綿花栽培：東北コットンプロジェクトは、2011年の東日本大震災の復興運動としてはじまりました。先日12月11日の日経新聞全国版夕刊には、「復興の綿花、被災地に咲く— 宮城 津波被害のコメ農家が挑戦 塩害に強く日本最大級の産地に」との見出しで、赤坂氏の取り組みが大きく紹介されました。記事の最後は以下のようにしめくられています。

震災の風化が社会的に心配される中、赤坂さんには目標がある。

東松島市の全家庭に綿花の種を配って育ててもらおうことだ。「白い花を見て、震災があったことを忘れないでもらえたらいいな」。

往復14時間をかけてでも参加して良かったと思えるサミットでした。



赤坂農園の綿畑(東松島市)

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和5年10月26日～令和5年12月25日)

宮城県1、福島県1、埼玉県1、東京都1、神奈川県1、福井県1、山梨県1、岐阜県1、静岡県1、愛知県1、奈良県2、熊本県2

【H.A.M.A.木綿庵】(令和5年10月26日～令和5年12月25日)

メールを含む各種相談件数8、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数9組14名



《綿の栽培記録 2023》－ 令和5年度版 その6－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和5年10月25日～12月22日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

いよいよ綿木引きの時期を迎え、5号畑の洋綿、6号畑の和綿についてはすべて抜き終わりました。ただ、今年は11月、12月と降雨が少なく、気温が高くなる(12月になってからでも20℃近くまで上がる)日があったことも影響してか、今でも洋綿、和綿ともに新たに弾けているものがあります。とくに7号畑のアブランド&スーピマ交雑綿は、11月になってから多く弾けています。晩生であるのかもしれませんが。

《京都ノートルダム女子大学にて、特別授業を担当》 令和5年10月26日(木)

昨年にひきつづき、「日本年中行事論」の学外ゲスト講師としてお招きをいただき、特別授業「棉から綿へーひと粒の種が布になるまでー」を担当させていただきました。副題は「綿作農家の一ねん」。日本における綿作の歴史、品種の解説、栽培と加工の手順から、江戸時代後期における綿作農家の一年(『日本農書全集』第28巻所収「山本家百姓一切有近道」より)、現代における綿作農家(私)の綿作にかける思い、一念についてお話させていただきました。最後は「念」にかけて大蔵永常『綿圃要務』と本居宣長『初山踏』を紹介。学生のみなさんも終始熱心に受講してくださり、あっという間の90分でした。

《収穫祭2023：綿畑の観察&スピンドル講習、を開催》 令和5年11月3日(金)

さわやかな秋空のもと、10時30分に開始。まず、日本における綿栽培の歴史や各品種の特徴などを概説、短繊維綿(和綿)/中繊維綿(洋綿アブランド)/長繊維綿(洋綿スーピマ)の種から生える毛(繊維)の長さを各自で比較。その後は圃場に移動して、本年の栽培方針、作柄等について説明。洋綿、和綿の花の観察、緑の蒴果(弾ける前のコットンボール)を切断して中身を観察するなどしました。ひきつづき、木綿庵特製スピンドルによる糸紡ぎ講習をおこない、13時前に終了、解散。参加者は4組5名。

《2023全国コットンサミットin東松島、に参加》 令和5年11月24日(金)、25日(土)

本大会は宮城県東松島市コミュニティセンターを会場に開催され、各地で綿花栽培、加工に取り組む方々と交流する機会を得ました。2日目の見学会では、赤坂農園さんが主催する「東北コットンフェスティバル」に参加させていただきました。詳細は1面参照。下段写真右端は、瞬く間に収穫された綿花の山。

《天理市 ユースアドバイザー研修講座、講師を担当》 令和5年12月8日(金)

天理市教育総合センター(天理市勾田町)の大研修室にて、午後1時30分～3時開催。ユースアドバイザー研修講座とは、ニート・ひきこもりなど、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者を支援する上で、必要なスキルを学ぶ講座。令和元年(2019)12月につづいて、講師を担当させていただきました。テーマは「畑を通じて居場所づくり」。PPT資料を用いH. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)の活動について紹介、最後はスピンドルによる糸紡ぎと機結びを実演させていただきました。受講生は約15名。

【写真は左から14号畑の洋綿、ノートルダム女子大学特別授業、収穫祭、コットンサミットin東松島2枚】



【研修等の記録】

- ・ 令和5年10月26日 京都ノートルダム女子大学(京都市上京区)にて、特別授業「棉から綿へ」担当
- ・ 令和5年11月03日 H. A. M. A. 木綿庵の収穫祭：「2023秋・綿畑の観察&スピンドルで糸紡ぎ」を開催
- ・ 令和5年11月24日-25日 2023全国コットンサミットin東松島(宮城県東松島市)に参加
- ・ 令和5年11月26日 奈良県主催「社会的ひきこもりに対する理解を深めるセミナー」(王寺町)に参加
- ・ 令和5年12月08日 「天理市ユースアドバイザー研修講座」(天理市教育総合センター)にて、講師担当
- ・ 令和5年12月08日 市長室にて、並河健天理市長と「綿花栽培と大和、天理との関わり」について懇談